

2019（令和元）年度全学期シラバス一覧

■全学期授業科目（1～44 まで）

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1001
科目名	教育課程編成の課題と実践
英文科目名	
担当教員名	各教員
担当教員英文名	各教員
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	本講義では、学習指導要領を基準にして編成される教育課程の意義やその編成方法を学ぶとともに今日、学校に求められるカリキュラム・マネジメントの考え方を深める。これから活動を通して、教師に期待されるカリキュラム編成・改善の基本的能力を身につけることを目指す。
授業の到達目標（授業のレベル）	・学習指導要領を基準として学校において編成される教育課程の役割・機能・意義を説明できる。 ・教育課程編成の原理、学校の実情に即した教育課程編成の方法を説明できる。 ・学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの進め方を説明できる。
ディプロマポリシー	1 Leading teachers who possess professional ethics, profound academic knowledge in educational fields, and professional teaching skills in special needs education or in the education of each subject. ○ 2 Possessors of ability to research and practice in order to solve contemporary problems in schools. ○
授業概要・形式	
本講義では、学習指導要領を基準にして編成される教育課程の意義やその編成方法を学ぶ	

とともに今日、学校に求められるカリキュラム・マネジメントの考え方を深める。これから活動を通して、教師に期待されるカリキュラム編成・改善の基本的能力を身につけることを目指す
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
・授業中に課題を提示する。その課題について各自まとめて提出する。 ・前半は、「新学習指導要領解説総則編」を復習する。 ・後半は、グループで学校の教育課程の評価を分析するので、プレゼンテーションができるようにする。
成績評価基準（授業評価方法）
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
学校経営 カリキュラム カリキュラム編成 カリキュラム評価 カリキュラムマネジメント
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
備考
小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編 文部科学省 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科道徳編 文部科学省
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
H0000001
学生用連絡先

学生用開示用メールアドレス
オフィスアワー
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1002
科目名	カリキュラム開発の課題と実践 I
英文科目名	School curriculum development I
担当教員名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 野村 晃男 [Akio Nomura]
担当教員英文名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 野村 晃男 [Akio Nomura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	教育学研究科専門職学位課程ディプロマ・ポリシーの「1. 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者」、「2. 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者」となるため、カリキュラム開発という側面から力量形成を行う。具体的には以下2点である。 ○カリキュラム開発に関わる理論的背景について理解を深める。 ○カリキュラム開発の理論に基づき、教育課程上の各領域のカリキュラムづくりへの応用力を高める。
授業の到達目標（授業のレベル）	中級 ○カリキュラム開発、カリキュラム・マネジメントという基礎的概念について、理論的背

景、日本を中心としたその展開を理解する。 ○勤務している（あるいは勤務を希望する）校種を中心に、隣接校種との接続もふまえながら、具体的な教科・領域においてカリキュラムを構想できる。 ○教科等を横断した視点で、教育内容、学習活動、人的・物的リソースを関連づけることができる。
ディプロマポリシー
専門職学位課程ディプロマポリシー（改訂案）の1, 2にかかわる能力を、「カリキュラム開発」という局面に即して育成する。 1. 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 2. 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力
授業概要・形式
近年の学校教育が直面する課題を踏まえつつ、勤務校におけるカリキュラム開発において主導的な役割が果たせるようになるため、カリキュラム開発に関わる理論を学習するとともに、現職の院生は自校のカリキュラム資料を、ストレートマスターの院生は先進校のカリキュラム資料を持ち寄り、これらを分析しつつ実践的応用力を高める。 研究者教員は理論的背景についての講義および情報提供、教諭・学校管理職等として実務経験を有する実務家教員は学校現場の状況や子どもの発達に即した実践的知識の提供を中心に行うとともに、院生によるプレゼンテーションに対してはそれぞれの立場からコメントを行う。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
現職教員については、これまでの勤務校でのカリキュラムに関する資料の収集・整理、学部新卒者については先進校等の実践記録の自発的な講読が望まれる。
成績評価基準（授業評価方法）
授業中のプレゼンテーション 60% 討論への参加 40%
受講条件（履修資格）
教職リーダー専攻1年生
メッセージ（受講のルール）
カリキュラム開発についての基礎理解と実践力の向上を目指したい。
キーワード
カリキュラム開発 カリキュラムマネジメント

ト, 教育内容, 教育資源
この授業の基礎となる科目
なし
次に履修が望まれる科目
カリキュラム開発の課題と実践Ⅱ
関連授業科目
学校評価の課題と実践
授業の形式 (授業方法)
ティームティーチング 講義 プランニング
備考
参考書 1
● 学びのためのカリキュラム論 ● 4326298677 ● グループ・ディダクティカ 編, ● 勁草書房 ● 2000
参考書 2
● 教育課程 : カリキュラム入門 ● 4641076308 ● 柴田義松 著, ● 有斐閣 ● 2000
参考書 3
● 学力を創るカリキュラム経営 ● 9784324093412 ● 天笠茂 編・編著, ● ぎょうせい ● 2011
参考書 4
● 確かな学力を育てるカリキュラム・マネジメント ● ● 田中統治・編集 ● 教育開発研究所 ● 2003
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード
56680507
学生用連絡先
教育学部 A 棟 5 階 A 5 0 2 号室 TEL 027-220-7371
学生用開示用メールアドレス
y-yusuke@gunma-u.ac.jp

オフィスアワー
前期 : 毎週火曜日および水曜日 PM. 12:50-PM. 14:20 教育学部 A 棟 5 階 A 5 0 2 号室 不在の場合はメールにて連絡を。 後期 : 同上。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科 (専門職学位課程)
時間割番号	EM1003
科目名	学習支援の課題と実践 I
英文科目名	Learning and instruction I
担当教員名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
担当教員英文名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
授業科目区分 (科目分野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的 (授業の目標及び期待される効果)	専門職学位課程教職リーダー専攻 (児童生徒支援コース・学校運営コース) の必修科目である。心理学の理論知と学校現場の実践知との往還を通して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを検討することをねらいとする。以下の観点から、受講生の能力を育むことを目指す : (1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力、(2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力、(3) 構築した対応策を他者 (同僚, 保護者等) との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力。
授業の到達目標 (授業のレベル)	学生は、心理学の理論を学び説明できる。心理学の理論と授業実践を結びつけて理解出来る。以上に基づき、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想することができる。
ディプロマポリシー	

<p>1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者</p> <p>2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者</p> <p>3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者</p>	<p>て提案できること。</p> <p>受講条件（履修資格） 教職大学院の1年次生 メッセージ（受講のルール）</p>
<p>授業概要・形式</p>	<p>キーワード 学習、認知、転移、メタ認知、協同、実務経験 この授業の基礎となる科目</p>
<p>Learning and instruction I 教員は、「記憶と知識」、「学習の転移」、「協同学習」、「メタ認知」という4つのテーマについて、心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを論じる。毎回、研究者教員と実務経験のある教員（小中学校教員・教育行政職の経験を有する者）がチームティーチングを行う。実務経験のある教員が、その実務経験を生かして、小中学校現場での授業実践について講義を行う。</p>	<p>次に履修が望まれる科目 学習支援の課題と実践II 関連授業科目</p>
<p>授業スケジュール（授業の展開）</p>	<p>授業の形式（授業方法） 研究者教員と実務家教員のチームティーチングによる。講義を基本とし、模擬授業や受講生同士のディスカッションも取り入れる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス、前半の概要 担当者：佐藤・田村 ● 記憶と知識（1） 担当者：佐藤・田村 ● 記憶と知識（2） 担当者：佐藤・田村 ● 学習の転移（1） 担当者：佐藤・田村 ● 学習の転移（2） 担当者：佐藤・田村 ● 記憶と知識（3） 担当者：佐藤・田村 ● 学習の転移（3） 担当者：佐藤・田村 ● 後半の概要 担当者：佐藤・田村 ● 協同学習（1） 担当者：佐藤・田村 ● 協同学習（2） 担当者：佐藤・田村 ● メタ認知（1） 担当者：佐藤・田村 ● メタ認知（2） 担当者：佐藤・田村 ● 協同学習（3） 担当者：佐藤・田村 ● メタ認知（3） 担当者：佐藤・田村 ● まとめ 担当者：佐藤・田村 	<p>教科書1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習の支援と教育評価：理論と実践の協同 ● 9784762828010 ● 佐藤浩一 編著, ● 北大路書房 ● 2013
<p>授業時間外学習にかかわる情報</p>	<p>教科書2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援のツボ：認知心理学者が教室で考えたこと ● 9784762828652 ● 佐藤浩一 著, ● 北大路書房 ● 2014
<p>授業時間中に課題を提示するので、それに基づき、発表の準備をすること。シラバス記載の参考書は一読することが望ましい。</p>	<p>備考</p>
<p>成績評価基準（授業評価方法）</p>	<p>参考書1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学力と学習支援の心理学 ● 978-4-595-314599 ● 市川伸一 ● NHK出版 ● 2014
<p>「成績評価の方法」予習課題（20%）、授業中の協議への参加（20%）、授業中の模擬授業（20%）、最終レポート（40%）</p>	<p>参考書2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「本物の学力」を伸ばす授業の創造 ● 9784810015935 ● 北尾倫彦 著, ● 図書文化社 ● 2011
<p>「成績評価基準」心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想し、授業とし</p>	<p>参考書3</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導の心理学：教え方の理論と技術 ● 4641075492

<ul style="list-style-type: none"> ● 北尾倫彦 著, ● 有斐閣 ● 1991
参考書 4
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達と学習 ● 9784762827204 ● 市川, 伸一, 日本認知心理学会, ● 北大路書房 ● 2010
参考書 5
<ul style="list-style-type: none"> ● 自己調整学習 = Self-Regulated Learning : 理論と実践の新たな展開へ ● 9784762827747 ● 自己調整学習研究会 編, ● 北大路書房 ● 2012
参考書 6
<ul style="list-style-type: none"> ● メタ認知 : 学習力を支える高次認知機能 ● 9784762826221 ● 三宮真智子 編著, ● 北大路書房 ● 2008
参考書 7
<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強法の科学 : 心理学から学習を探る ● 9784000296113 ● 市川伸一 著, ● 岩波書店 ● 2013
参考書 8
<ul style="list-style-type: none"> ● 「教えて考えさせる授業」の挑戦 : 学ぶ意欲と深い理解を育む授業デザイン ● 9784180620289 ● 市川伸一 編著, ● 明治図書出版 ● 2013
参考書 9
<ul style="list-style-type: none"> ● 科学的読解力を育てる説明活動のレパートリー ● 4761912693 ● 森田和良 著, ● 学事出版 ● 2006
参考書 10
<ul style="list-style-type: none"> ● 「わかったつもり」に自ら気づく科学的な説明活動 ● 4761910429 ● 森田和良 著, ● 学事出版 ● 2004

参考書 11
<ul style="list-style-type: none"> ● 「思考ツール」の授業 : 考えるってこういうことか! ● 9784091067579 ● 田村学, 黒上晴夫 著, ● 小学館 ● 2013
参考書 12
<ul style="list-style-type: none"> ● 協同学習入門 : 基本の理解と 51 の工夫 ● 9784779505737 ● 杉江修治 著, ● ナカニシヤ出版 ● 2011
参考書 13
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育学部教師の講義日記 : 小学校課程科目「教え方と子どもの理解」の実践 ● 4892944246 ● 伏見陽児 著, ● 星の環会 ● 2005
参考書 14
<ul style="list-style-type: none"> ● 心理実験で語る授業づくりのヒント ● 4762821551 ● 伏見陽児 著, ● 北大路書房 ● 1999
参考書 15
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの論理を活かす授業づくり : デザイン実験の教育実践心理学 ● 9784762826887 ● 吉田甫, エリック・ディコルテ 編著, ● 北大路書房 ● 2009
参考書 16
<ul style="list-style-type: none"> ● 認知心理学からみた授業過程の理解 ● 4762821306 ● 多鹿秀継 編著, ● 北大路書房 ● 1999
参考書 17
<ul style="list-style-type: none"> ● 教科心理学ハンドブック : 教科教育学と教育心理学による“わかる授業の実証的探究” ● 9784810005592 ● 福沢周亮, 小野瀬雅人 編著, ● 図書文化社 ● 2010
参考書 18
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の輪 : 学び合いの協同教育入門 ● 9784861080579

<ul style="list-style-type: none"> ● D.W. ジョンソン, R.T. ジョンソン, E. J. ホルベック 著, 石田裕久, 梅原巳代子 訳, ● 二瓶社 ● 2010
参考書 19
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の心理学 : 認知心理学からみた教育方法論 ● 9784571210402 ● 栗山和広 編著, ● 福村出版 ● 2014
参考書 20
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害研究から考える通常学級の授業づくり : 心理学、脳科学の視点による新しい教育実践 ● 9784760832453 ● 宇野宏幸, 井澤信三, 小島道生 編著, ● 金子書房 ● 2010
備考
参考書は授業中に随時、紹介する。「学習支援の課題と実践Ⅱ」の参考書も参照のこと。
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード
64140672
学生用連絡先
B棟5階508号室 内線7376
学生用開示用メールアドレス
sato@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週 月曜日の7・8校時、火曜日の3・4校時
B棟5階508号室
不在の場合は、ドアにメッセージ(連絡先)を貼付してください。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科(専門職学位課程)
時間割番号	EM1004
科目名	教育評価の課題と実践Ⅰ

英文科目名	evaluation
担当教員名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
担当教員英文名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
授業科目区分(科目分野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的(授業の目標及び期待される効果)	教員の業務として必要な各種評価活動(成績評価だけではなく、指導と結びついた評価活動)が、現職教員およびストレートマスター双方にとって十分なものになることを目標としている。
授業の到達目標(授業のレベル)	現職教員は、これまでの評価活動をさらに充実させ、ミドルリーダーとして若手を指導できるレベルを目指し、ストレートマスターであれば、実際に一年目から即戦力として評価活動を行えるレベルを到達目標としている。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
授業概要・形式	ティーム・ティーチングで研究者教員と実務家教員との両方で行っている。両者の講義に加えて、グループをもとに、これまで行ってきた評価活動を発表し、そのリフレクションを行う。
授業スケジュール(授業の展開)	
授業時間外学習にかかわる情報	各自が行っている教育活動への評価についてリフレクションをしてほしい。
成績評価基準(授業評価方法)	発表者の発表を主体として、それを80%、最後のレポートを20%として、研究者と実務家の間で合議の上、最終評価する。各人のプレゼンテーションのテーマを以下の基準で判定する。 S : テーマが十分に適切に設定され、プレゼ

<p>ンテーションおよびレポートにおいて学習した内容と自身の主張が説得的に提示されている。</p> <p>A：テーマが十分に適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習した内容が明快に提示されている。</p> <p>B：テーマが適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習した内容が提示されている。</p> <p>C：プレゼンテーションおよびレポートは実施されたが、テーマおよび学習した内容の提示において明確さを欠く。</p> <p>D：レポート、プレゼンテーションの内容が著しく不十分であるか未実施である。</p>
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
真正の評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
同 II
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
研究者教員の講義＋実務家教員の講義＋各グループごとの発表＋リフレクション
教科書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の支援と教育評価：理論と実践の協同 ● 978-4-7628-2801 ● 佐藤浩一 編著, ● 北大路書房 ● 2013
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24431267
学生用連絡先
B棟5階510号室 027-220-7375
学生用開示用メールアドレス

akihiro-y@gunma-u. ac. jp
オフィスアワー
毎週月曜 午前10時～12時 B510 火曜 午前10時～12時 B510
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1005
科目名	授業分析実践
英文科目名	
担当教員名	田村 充 [Tamura Mitsuru], 鈴木 豪 [Goh Suzuki]
担当教員英文名	田村 充 [Tamura Mitsuru], 鈴木 豪 [Goh Suzuki]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	学習者の深い理解と学ぶ力を育成するための授業のあり方を理解した上で、具体的な授業を分析し考案する力を養う。
授業の到達目標（授業のレベル）	心理学のおよび実践的な見地から授業を分析・考案する視点を理解できる。それらの知見を実際の授業で活用できる。
ディプロマポリシー	②各教科の内容について、深い認識を有している者 ③各教科について、実践的な指導力を有している者 ④現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している者 ⑤子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者 ⑥子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者

授業概要・形式
教員から認知心理学および実践的見地から理論・実践についての解説を行った後、受講者からそれらの知見に基づく授業指導案を提案する。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
発表の準備は授業外で行う。
成績評価基準（授業評価方法）
討論への参加や発表内容などを総合的に評価する。
受講条件（履修資格）
教職リーダー専攻1年生
メッセージ（受講のルール）
学生の方々の積極的・主体的・協同的な参加を期待しています。
キーワード
授業分析 授業づくり 指導案作成 認知心理学
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
教職リーダー専攻授業全般
授業の形式（授業方法）
受講者による発表と討論を中心とした演習形式。
備考
必要に応じて受講者に紹介する。
備考
必要に応じて受講者に紹介する。
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24338564
学生用連絡先
教育学部N棟1階
学生用開示用メールアドレス
amura-mi@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週火曜日 AM10:20-11:50 N棟1階
毎週金曜日 AM10:20-10:50 N棟1階
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1006
科目名	児童・生徒理解の課題と実践 I
英文科目名	Problem and practice of understanding on children I
担当教員名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 添島 康夫 [Yasuo Soejima]
担当教員英文名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 添島 康夫 [Yasuo Soejima]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	児童・生徒一人一人を理解するための基本的な視点に関する理論と、一般的な発達および発達障害の基礎的知識を習得することをねらいとする。
授業の到達目標（授業のレベル）	一般的発達や発達障害の基礎的知識を持ち、児童・生徒一人一人を理解するために利用することができる。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式	児童生徒理解のための基礎的理論および一般的な発達特性について講義する。また、発達障害については事例を紹介する。さらに、それらの基礎的知識をもとに、指導上の留意点や実践について、受講者の発表に基づき全体でディスカッションを行う。

授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
授業時間中に発表する課題を提示する。必要に応じて発表の準備をしたり、レジュメを作成したりする。
成績評価基準（授業評価方法）
「評価方法」 平常点 60% 期末課題 40%
「成績評価基準」 発達および発達障害の基礎的な知識を習得し、それに基づき指導上の留意点を考察できる。
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
発達、発達障害
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
児童・生徒理解の課題と実践Ⅱ
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
講義および受講者の発表・討議
備考
参考書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害のある子が育つ 150 の学習課題 & 学び術：子どもの中に「育ちの力」と未来を拓く学びが見えてくる… ● 4182500172 ● 添島康夫 著, ● 明治図書出版 ● 2016
参考書 2
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害のある子の「育ちの力」を引き出す 150 のサポート術：「できにくさ」を乗り越える時、心にリュウが見えてくる… ● 4181647188 ● 添島康夫 著, ● 明治図書出版 ● 2014
参考書 3
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害のある子の困り感に寄り添う支援：通常の学級に学ぶ LD・ADHD・アスペの子どもへの手立て ● 9784054025035 ● 佐藤暁 著,

● 学習研究社
● 2004
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24738863
学生用連絡先
学生用開示用メールアドレス
mi-oshima@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期
毎週火曜日 9:00-10:00
毎週木曜日 9:30-12:30
後期
毎週月曜日 10:30-12:30
毎週火曜日 9:30-10:00
B 棟 5 階 509 室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1007
科目名	児童・生徒指導の課題と実践Ⅰ
英文科目名	Studies of School Guidance I
担当教員名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 吉田 浩之 [Hiroyuki Yoshida]
担当教員英文名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 吉田 浩之 [Hiroyuki Yoshida]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	

授業の目的（授業の目標及び期待される効果）
教育活動における生徒指導、問題行動について学修し、児童生徒理解に基づく実践の在り方について学ぶ
授業の到達目標（授業のレベル）
アセスメント、各理論とそのアプローチの知識獲得 事例研究による実践力の向上
ディプロマポリシー
1 優れた人間性と豊かな教養を有している者 2 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している者 3 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる者
授業概要・形式
生徒指導と機能と自己指導能力の育成について理解。児童生徒の問題行動と対応の理解。
授業スケジュール（授業の展開）
<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● カウンセリング 心理学 ● 生徒指導概論 ● 児童生徒理解 ● 心理アセスメント ● 学校心理学 1 ● 学校心理学 2 ● リフレクション 1 ● 学校臨床心理学 1 ● 学校臨床心理学 2 ● いじめ ● Case Study for Non-Attendance Students ● キャリア教育 ● 統合的アプローチ ● リフレクション 2 ● レポート
授業時間外学習にかかわる情報
割り当てられたグループ毎に発表資料の作成、準備。
成績評価基準（授業評価方法）
・生徒指導上の課題の明確な理解 ・事例検討を通じた生徒指導の在り方の理解 第 8 回及び第 14 回のリフレクションでのレポート 50% 第 15 回のレポート 50% ① キーワードの概念を理解し使用している ② 問題行動のメカニズムが理解できている

る ③ 理解に基づく生徒指導のアプローチの理解できている ①～③すべて達成 A 2 項目達成 B 1 項目達成 C 何れの項目也未達成 D
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード 課題解決モデル アセスメント 生徒指導の機能 問題行動のメカニズム 援助・指導 この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法） 講義・ワーク・プレゼンテーション 備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード 24554871 学生用連絡先 A 棟 5 階 501 号室 TEL 220-7372 学生用開示用メールアドレス peer_tk7ca@gunma-u.ac.jp オフィスアワー 月曜日・水曜日 12:40～14:20 A 棟 5 階 501 室 教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1008

科目名	特別活動指導の課題と実践 I
英文科目名	Special Activities I
担当教員名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 音山 若穂 [Otoyama Wakaho]
担当教員英文名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 音山 若穂 [Otoyama Wakaho]
授業科目区分 (科目分野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的 (授業の目標及び期待される効果)	
特別活動の目標と意義を正しく理解した上で、学級活動の基盤となる教師－児童生徒間および児童生徒相互の関係の望ましい在り方、児童会・生徒会活動を効果的に進めるための学校体制の整備、学校行事の適切な目標設定と評価について学修する。	
授業の到達目標 (授業のレベル)	
特別活動の目的や意義について理解している人間関係づくりについての基本的なスキルを身に付けている	
ディプロマポリシー	
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者	
授業概要・形式	
Special Activities I 特別活動で要求される教師の心理教育的支援技能の実習を含める。模擬授業および技能実習を実施するため現職教員と学部新卒学生と一緒に受講する。	
授業スケジュール (授業の展開)	
授業時間外学習にかかわる情報	
演習 (体験活動、トレーニング等) については事前の準備を含む。	

成績評価基準 (授業評価方法)	授業での諸活動30点、および活動中のレポート等70点により総合的に評価する。 A: 100-80 / B: 79-70 / C: 69-60 / D: 59-0
受講条件 (履修資格)	
メッセージ (受講のルール)	
キーワード	
この授業の基礎となる科目	
次に履修が望まれる科目	
関連授業科目	
授業の形式 (授業方法)	講義および演習形式
備考	
備考	
教科書・参考書に関する補足情報	
コース管理システム (Moodle) へのリンク	
責任教員コード	24554871
学生用連絡先	A 棟5階501号室 TEL 220-7372
学生用開示用メールアドレス	peer_tk7ca@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー	月曜日・水曜日 12:40~14:20 A棟5階501室
教員ホームページ	
関連ホームページ	

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科 (専門職学位課程)
時間割番号	EM1011
科目名	教員の倫理
英文科目名	Ethic of the teacher
担当教員名	三澤 紘一郎 [Koichiro Misawa]

担当教員英文名	三澤 紘一郎 [Koichiro Misawa]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
哲学、倫理学、教育哲学といった学問分野の知見を参考にしながら学ぶことにより、教育に関わる倫理的な側面を自分で考察できるようになること。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
教育を哲学、倫理学の面から専門的に学び、教育がもつ倫理的な側面についての理解を深める。	
ディプロマポリシー	
2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者	
授業概要・形式	
西欧の哲学や教育思想を中心に、教育に関する哲学的な探究が現在の日本の教育（特に倫理的な側面）を理解するうえでも重要な貢献をしていることを学んでいく。	
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	
・ 授業時間中に課題を提示する ・ 扱うテーマに応じて、原典・参考文献・資料のリストを提示するので、関心に応じて目を通すこと	
成績評価基準（授業評価方法）	
レポート： 30% 試験： 40% 授業への積極的な参加（ディスカッション、プレゼンテーションなど）： 30%	
受講条件（履修資格）	
なし	
メッセージ（受講のルール）	
われわれは、自分たちが自明視している枠組みには気づきにくいものです（それを通して対象を見ている自分の目を、自分では見ることができないように）。しかし、自分が前提としている枠組みの存在に気づき、さらにそれを問いなおしていく作業は、教育（特にそ	

の倫理的な側面）を学ぶにあたって欠かせないものです。人類が紡いできた教育や倫理に関する思想を辿ってみることは、そのための有力な方途となるはずです。
キーワード
倫理、価値、相対主義、社会正義、民主主義
この授業の基礎となる科目
なし
次に履修が望まれる科目
なし
関連授業科目
なし
授業の形式（授業方法）
講義、ディスカッション、プレゼンテーション
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
N/A
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24738964
学生用連絡先
教育学部 A 棟 5 階 A504 Tel: 027-220-7373
学生用開示用メールアドレス
kmisawa@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
火曜日： 13.00-16.00
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1012
科目名	多文化共生教育の課題と実践
英文科目名	Multicultural Education
担当教員名	新藤 慶 [Shindo Kei], 清水 喜義 [Kiyoshi Shimizu]

担当教員英文名	新藤 慶 [Shindo Kei], 清水 喜義 [Kiyoshi Shimizu]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	本授業では、多文化共生教育の現状を把握し、今後の実践に必要な力量の形成を目指す。今回は群馬県にも多くが生活する在日ブラジル人児童生徒をめぐる教育を中心とするが、多文化共生教育は、外国籍児童生徒の教育のみを指すわけではない。さまざまな形で特別な支援が必要な子どもたちへの教育についても、結びつきを持つことも期待される。
授業の到達目標（授業のレベル）	在日ブラジル人を中心とする外国籍児童生徒の教育をめぐる実態と課題と把握し、勤務校において適切な実践につなげられる力量の獲得を目標とする。大学院の授業であるため、これまで大学等で学んできた知見や、現職教員については学校での勤務により培った経験を出し合い、受講生全体の力量の向上に貢献することが求められる。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者
授業概要・形式	グローバル化の進展に伴い、その必要性が高まっている「多文化共生教育」について、その現状と今後の実践のあり方について考える。特にこの授業では、群馬県にも多くが生活するブラジル人児童生徒を対象とした多文化共生教育に関する諸研究や諸実践を、子ども、教師、保護者と教育行政などさまざまな視点から検討することで、実態の的確な把握と、よりよい実践の構築につなげたい。 授業は、教員からの講義、受講生との討論、受講生の課題発表から構成する。
授業スケジュール（授業の展開）	

授業時間外学習にかかわる情報	授業中に提示する課題の準備に取り組むことが必要である。
成績評価基準（授業評価方法）	討論への参加と課題の水準により総合的に評価する
受講条件（履修資格）	
メッセージ（受講のルール）	異なる文化的な背景を持つ子どもたちは、これからも増えていくと思われます。そのような「多文化化」する学校での教育のあり方について、受講生の皆さんの経験などをふまえながら、一緒に考えていけたらと思います。
キーワード	多文化共生、在日ブラジル人児童生徒、保護者
この授業の基礎となる科目	
次に履修が望まれる科目	外国籍児童生徒の支援と学校運営
関連授業科目	外国籍児童生徒の支援と学校運営
授業の形式（授業方法）	研究者教員と実務家教員の TT によって進める。授業は、教員からの講義、受講生との討論、受講生の課題発表から構成する。
備考	
参考書 1	<ul style="list-style-type: none"> ● 在日ブラジル人の教育と保育：群馬県太田・大泉地区を事例として ● 4-7503-1696-2 ● 小内透 編著, ● 明石書店 ● 2003
参考書 2	<ul style="list-style-type: none"> ● 講座トランスナショナルな移動と定住：定住化する在日ブラジル人と地域社会 ● 4-275-00852-7 ● 小内透 編著, ● 御茶の水書房 ● 2009
参考書 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちのアイデンティティ・ポリティックス：ブラジル人のいる小学校のエスノグラフィー ● 4-7885-1063-0 ● 森田京子 著,

● 新曜社 ● 2007
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード 24618616
学生用連絡先 A棟5階503号室 TEL 027-220-7380 学生用開示用メールアドレス shindo@gunma-u.ac.jp オフィスアワー 毎週月曜日 10:20-11:50 A棟5階503室 毎週火曜日 10:20-11:50 A棟5階503室 教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科(専門職学位課程)
時間割番号	EM1014
科目名	学習支援の課題と実践Ⅱ
英文科目名	Learning and instruction II
担当教員名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
担当教員英文名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
授業科目区分(科目分野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	

授業の目的(授業の目標及び期待される効果)
専門職学位課程 教職リーダー専攻 児童生徒支援コースの選択科目である。心理学の理論知と学校現場の実践知との往還を通して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを探ることをねらいとする。受講生が以下の能力を身につけることを目指す:(1)学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的

確に分析・把握し、課題を明らかにする能力、(2)明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力、(3)構築した対応策を他者(同僚、保護者等)との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力。
授業の到達目標(授業のレベル) 学生は、心理学の理論を学び、それを授業実践と結びつけて捉えることができる。児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想することができる。
ディプロマポリシー 1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者(同僚、保護者等)との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式 Learning and instruction II 教員は、心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを探る。受講生は模擬授業を実施する。毎回、研究者教員と実務経験のある教員(小中学校教員・教育行政職の経験を有する者)とのチーム・ティーチングで実施する。実務経験のある教員が、その実務経験を生かして、小中学校現場での授業実践にどのように心理学の理論を活用するかという観点から、講義を行ったり、受講生の提案する模擬授業にアドバイスを行う。
授業スケジュール(授業の展開) ● ガイダンス 認知心理学と学習指導 (1) 担当:佐藤・田村 ● 認知心理学と学習指導(2) 担当:佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討(1) 担当:佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討(2) 担当:佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討(3) 担当:佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討(4) 担当:佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討(5) 担当:佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討(6) 担当:佐藤・田村

<ul style="list-style-type: none"> ● 模擬授業、指導案の検討 (7) 担当：佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討 (8) 担当：佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討 (9) 担当：佐藤・田村 ● 模擬授業、指導案の検討 (10) 担当：佐藤・田村 ● 認知心理学と学習指導 (3) 担当：佐藤・田村 ● 認知心理学と学習指導 (4) 担当：佐藤・田村 ● まとめ 担当：佐藤・田村 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2014
授業時間外学習にかかわる情報	教科書 2
指導案ならびに模擬授業の準備を行うこと。シラバス記載の参考書は一読することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の支援と教育評価：理論と実践の協同 ● 9784762828010 ● 佐藤浩一 編著, ● 北大路書房 ● 2013
成績評価基準 (授業評価方法)	備考
「成績評価の方法」授業中の協議への参加 (20%)、授業中の模擬授業 (40%)、最終レポート (40%)	参考書 1
「成績評価基準」心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想し提案できること。	<ul style="list-style-type: none"> ● いちばんやさしい教える技術：教えられた人が必ず「できる!」ようになる：「教えること」を教える先生が書いた ● 9784522430880 ● 向後千春 著, ● 永岡書店 ● 2012
受講条件 (履修資格)	参考書 2
教職大学院の1年次生。「学習支援の課題と実践Ⅰ」を履修済みであること。	<ul style="list-style-type: none"> ● インストラクショナルデザイン：教師のためのルールブック ● 9784946553196 ● 島宗理 著, ● 米田出版 ● 2004
メッセージ (受講のルール)	参考書 3
	<ul style="list-style-type: none"> ● 先生が明日からできること。 ● 9784434104084 ● 金子晴恵 著, ● 杉並けやき出版 ● 2007
キーワード	参考書 4
学習、認知、知識、動機づけ、学校、実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師のための「教える技術」 ● 9784181192136 ● 向後千春 ● 明治図書 ● 2014
この授業の基礎となる科目	参考書 5
学習支援の課題と実践Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童心理 2013年2月号 臨時増刊 家庭学習を問い直す ● ● ● 金子書房 ● 2013
次に履修が望まれる科目	参考書 6
関連授業科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習と教育の心理学 ● 9784000039185 ● 市川伸一 ● 岩波書店 ● 2011
学習支援の課題と実践Ⅰ	
授業の形式 (授業方法)	
研究者教員と実務家教員のチームティーチングによる。模擬授業や指導案の検討を中心とする。	
教科書 1	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援のツボ：認知心理学者が教室で考えたこと ● 9784762828652 ● 佐藤浩一 ● 北大路書房 	

参考書 7
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業づくりの知恵 60 ● 9784181768454 ● 藤森裕治 著, ● 明治図書出版 ● 2015
参考書 8
<ul style="list-style-type: none"> ● あの子のつまずきを見える化する方法 : 無理なくできる!読み書き計算が苦手な子への指導法アラカルト ● 9784491031026 ● 樋口一宗 著, ● 東洋館出版社 ● 2015
備考
参考書は授業中に随時、紹介する。「学習支援の課題と実践 I」の参考書も参照すること。
教科書・参考書に関する補足情報
参考書は随時、授業で紹介する。
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード
64140672
学生用連絡先
B棟5階508号室 内線7376
学生用開示用メールアドレス
sato@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週 月曜日の7・8校時、火曜日の3・4校時 B棟5階508号室 不在の場合は、ドアにメッセージ(連絡先)を貼付してください。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科(専門職学位課程)
時間割番号	EM1015
科目名	教育評価の課題と実践Ⅱ
英文科目名	evaluation
担当教員名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
担当教員英	山口 陽弘 [Yamaguchi

文名	Akihiro], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
授業科目区分(科目分野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的(授業の目標及び期待される効果)	教員の業務として必要な各種評価活動(成績評価だけではなく、指導と結びついた評価活動)が、現職教員およびストレートマスター双方にとって十分なものになることを目標としている。
授業の到達目標(授業のレベル)	現職教員は、これまでの評価活動をさらに充実させ、ミドルリーダーとして若手を指導できるレベルを目指し、ストレートマスターであれば、実際に一年目から即戦力として評価活動を行えるレベルを到達目標としている。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
授業概要・形式	ティーム・ティーチングで研究者教員と実務家教員との両方で行っている。両者の講義に加えて、グループをもとに、これまで行ってきた評価活動を発表し、そのリフレクションを行う。
授業スケジュール(授業の展開)	
授業時間外学習にかかわる情報	学習支援の授業もぜひ受講されてください。
成績評価基準(授業評価方法)	発表者の発表を主体として、それを80%、最後のレポートを20%として、研究者と実務家の間で合議の上、最終評価する。各人のプレゼンテーションのテーマを以下の基準で判定する。 S: テーマが十分に適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習した内容と自身の主張が説得的に提示されている。 A: テーマが十分に適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習し

た内容が明快に提示されている。	
B：テーマが適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習した内容が提示されている。	
C：プレゼンテーションおよびレポートは実施されたが、テーマおよび学習した内容の提示において明確さを欠く。	
D：レポート、プレゼンテーションの内容が著しく不十分であるか未実施である。	
受講条件（履修資格）	
メッセージ（受講のルール）	
キーワード	
真正の評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	
この授業の基礎となる科目	
同 I を受講していることが前提となる。	
次に履修が望まれる科目	
関連授業科目	
授業の形式（授業方法）	
講義と受講者の発表	
備考	
備考	
教科書・参考書に関する補足情報	
コース管理システム（Moodle）へのリンク	
責任教員コード	
24431267	
学生用連絡先	
B棟5階510号室 027-220-7375	
学生用開示用メールアドレス	
akihiro-y@gunma-u.ac.jp	
オフィスアワー	
毎週月曜 午前10時～12時 B510	
火曜 午前10時～12時 B510	
教員ホームページ	
関連ホームページ	
開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）

時間割番号	EM1016
科目名	児童・生徒理解の課題と実践Ⅱ
英文科目名	Problem and practice of understanding on children
担当教員名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 添島 康夫 [Yasuo Soejima]
担当教員英文名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 添島 康夫 [Yasuo Soejima]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	児童生徒一人一人を理解していくための方法を学び、実践する。
授業の到達目標（授業のレベル）	事例検討・観察法の理解などから、児童生徒一人一人の行動の意味を考え、理解できるようになる。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式	事例検討を行うことで、課題を持つ児童生徒一人一人を丁寧に理解していく。また、児童生徒理解の方法の一つとして、観察法を学び、実践する。
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	授業時間中に課題を提示する。グループでの話し合いが必要な場合もある。
成績評価基準（授業評価方法）	「成績評価方法」話し合いへの参加 80%, 最終課題 20% 「成績評価基準」子どもの行動を事実に基づき読み取ることができるか。

受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
発達障害 児童・生徒理解
この授業の基礎となる科目
児童・生徒理解と実践 I
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
講義と演習
備考
適宜授業内で紹介する
参考書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 心理学マニュアル観察法 ● 9784762820762 ● 中沢潤／〔ほか〕編著, ● 北大路書房 ● 1997
参考書 2
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害のある子の「育ちの力」を引き出す 150 のサポート術：「できにくさ」を乗り越える時、心にリュウが見えてくる… ● 4181647188 ● 添島康夫 著, ● 明治図書出版 ● 2014
参考書 3
<ul style="list-style-type: none"> ● 発達障害のある子が育つ 150 の学習課題 & 学び術：子どもの中に「育ちの力」と未来を拓く学びが見えてくる… ● 4182500172 ● 添島康夫 著, ● 明治図書出版 ● 2016
備考
適宜授業内で紹介する
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24738863
学生用連絡先
学生用開示用メールアドレス

mi-oshima@gunma-u. ac. jp
オフィスアワー
前期
毎週火曜日 9:00-10:00
毎週木曜日 9:30-12:30
後期
毎週月曜日 10:30-12:30
毎週火曜日 9:30-10:00
B 棟 5 階 509 室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1017
科目名	児童・生徒指導の課題と実践 II
英文科目名	
担当教員名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
担当教員英文名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	教育活動における生徒指導、問題行動について学修し、児童生徒理解に基づく実践の在り方について学ぶ
授業の到達目標（授業のレベル）	・アセスメント、各理論とそのアプローチの知識獲得 ・事例研究による実践力の向上
ディプロマポリシー	4 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している。 5 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している。

6 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる。
授業概要・形式
学校臨床の視点を理解し、教育活動における実践について学修し、解決モデルの在り方を探究する。
授業スケジュール（授業の展開）
<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 臨床心理学 カウンセリング 心理療法 ● アセスメント ① ● アセスメント ② ● アセスメント ③ ● 精神分析 ● クライアント中心療法 ● 行動療法 ● 認知行動療法 ● ケース研究 ① 不登校 ● ケース研究 ② いじめ ● ケース研究 ③ 非行 ● 包括的なアプローチ ① デザイン ● 包括的なアプローチ ② ● リフレクション ● レポート作成
授業時間外学習にかかわる情報
授業スケジュールにより、割り当てられた準備、リアクションペーパーへの記入。
成績評価基準（授業評価方法）
<p>・生徒指導上の課題の明確な理解 ・事例検討を通じた生徒指導の在り方の理解</p> <p>第8回及び第14回のリフレクションでのレポート 50%</p> <p>第15回のレポート 50%</p> <p>① キーワードの概念を理解し使用している</p> <p>② 問題行動のメカニズムが理解できている</p> <p>③ 理解に基づく生徒指導のアプローチの理解できている</p> <p>①～③すべて達成 A 2項目達成 B 1項目達成 C 何れの項目も未達成 D</p>
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
臨床心理学 アセスメント ケース研究 カウンセリング 教育心理学

この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
講義・ワーク・ケース検討
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24554871
学生用連絡先
A棟5階501号室 TEL 220-7372
学生用開示用メールアドレス
peer_tk7ca@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
月曜日・水曜日 12:40～14:20 A棟5階501室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1018
科目名	教育相談の課題と実践Ⅱ
英文科目名	Studies of School Counseling 2
担当教員名	岩瀧 大樹 [Iwataki Daiju]
担当教員英文名	岩瀧 大樹 [Iwataki Daiju]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	

授業の目的（授業の目標及び期待される効果）
学校教育相談の領域における今日的課題を概観するとともに、教員個人および学校組織の観点からその解決や支援に向けて不可欠な知識、スキルの習得や向上を目指す。 また、問題の理解および把握における基礎的観点・アセスメント力を習得する。
授業の到達目標（授業のレベル）
児童生徒・保護者・教職員・学校・地域が抱える問題（学習、適応、健康、心理、進路など）を踏まえるとともに、それぞれのニーズに対する最適な援助や連携の方法について検討していく。 また、スクールリーダーとして、上記の問題に対し、適切なアプローチを判断するとともに、援助チームのコーディネート、チーム援助の方向性に関しても知見を深めていく。
ディプロマポリシー
学校教育相談に関する今日的課題について実践的な見地から考察をするとともに、個人かつ組織のリーダーとしての積極的な取り組み、介入などについて検討する。
授業概要・形式
適宜基礎的な心理学（教育心理学、臨床心理学）の知識に触れつつ、スクールリーダーとして学校教育相談の推進役としての役割について検討する。
授業スケジュール（授業の展開）
<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 学校不適應への理解①（不登校への初期の対応） ● 学校不適應への理解②（長期化した不登校への対応） ● 学校不適應への理解③（いじめ） ● 学校不適應への理解④（非行） ● 外部資源の活用（スクールカウンセラー、相談員） ● 有機的なコーディネーション ● 援助レベルのアセスメント ● 個人へのアセスメント（知的能力を把握する） ● 保護者との連携 ● 危機対応 ● リスクマネジメント（学校管理の観点から） ● 教職員への支援 ● 学校教育相談と特別支援教育 ● 学校教育相談の構造と倫理

● 予備日
授業時間外学習にかかわる情報
参考書等は、講義内にて適宜紹介。 講義内での取り組み、実施する様々なワーク等への積極的な姿勢を期待する。
成績評価基準（授業評価方法）
平常点（30%）と、適宜実施するリフレクション（70%）をもとに、総合して評価する。
受講条件（履修資格）
特になし
メッセージ（受講のルール）
キーワード
実務経験 学校教育相談 認知行動療法
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
講義形式を中心としつつ、ディスカッション、ロールプレイングなどの演習的要素を積極的に導入していく。
備考
参考書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育臨床と心理学：支える・学ぶ・教えるを科学する ● 9784762022791 ● 岩瀧大樹 著、 ● 学文社 ● 2012
参考書 3
<ul style="list-style-type: none"> ● 新・はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学 ● 9784762026980 ● 吉武光世編著 ● 学文社 ● 2017
備考
教科書・参考書に関する補足情報
講義内にて適宜紹介する。
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24463808
学生用連絡先
教育学部 A 棟 1 階 A110 TEL 027-220-7384

学生用開示用メールアドレス
iwataki@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
【前期】 毎週月曜日 PM. 14 : 20-15:50 毎週金曜日 AM. 10 : 20-11:50
【後期】 毎週月曜日 AM. 10 : 20-11:50 毎週火曜日 PM. 16 : 00-17:30
教育学部 A 棟 1 階 A110
* ご来室の際は、重複等を避けるべく、事前にメール等でアポイントのご確認をお願い致します。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1019
科目名	教育相談実習
英文科目名	Training for School Counseling
担当教員名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 岩瀧 大樹 [Iwataki Daiju]
担当教員英文名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 岩瀧 大樹 [Iwataki Daiju]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	傾聴、質問、問題のアセスメントなど、学校教育相談において特に不可欠となるスキルを、ロールプレイ、ディスカッション、エクササイズなどを中心に習得していく。また、教育相談機関における観察実習、相談実習、事例研究などを通して、教育現場に即した教育相談の課題と実践の在り方について考察する。
授業の到達目標（授業のレベル）	学校教育相談、スクールカウンセリングにおける応用的なスキルの習得を目指す。

ディプロマポリシー
学校現場に特に必要とされる相談実践を各々の事例に即して検討し、学校現場の子どもたち、保護者、教員の実態に沿った学校教育相談について学修する。特に本学ディプロマポリシー（1）における「児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力」に基づくことを目指す。
授業概要・形式
実習により相談技法と各理論を習得するとともに、専門相談機関での教育相談の体験を学ぶ。
授業スケジュール（授業の展開）
● オリエンテーション
● ロールプレイング実習①
● ロールプレイング実習②
● ロールプレイング実習③
● ロールプレイング実習④
● ロールプレイング実習⑤
● 教育相談機関における観察実習①
● 教育相談機関における観察実習②
● 教育相談機関における観察実習③
● 教育相談機関における相談実習①
● 教育相談機関における相談実習②
● 教育相談機関における相談実習③
● 事例研究①
● 事例研究②
● 事例研究③
● 予備日
授業時間外学習にかかわる情報
参考書等は、講義内にて適宜紹介。観察実習に関しては、実習先の機能・役割などの基礎的理解の予習を行う。様々なワーク等を取り入れる予定であるため、積極的な参加を期待する。
成績評価基準（授業評価方法）
平常の実習やディスカッションなどへの取り組みを 50 点、学期末のリフレクションを 50 点として総合的に評価する。
受講条件（履修資格）
特になし。
メッセージ（受講のルール）
積極的な講義への参加を期待します。
キーワード
学校教育相談 事例研究 トレーニング 観察実習 相談実践 スーパービジョン 実務経験
この授業の基礎となる科目
児童・生徒指導の課題と実践 I
次に履修が望まれる科目

教育相談の課題と実践
関連授業科目
カウンセリング演習
授業の形式（授業方法）
一斉形式を中核にしつつ、積極的に演習（エクササイズ、ディスカッション、発表、ロールプレイング、体験、見学、アセスメントなど）を取り入れていく。
教科書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● この講義では、配布資料を活用する。 ● ● ● ●
備考
参考書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育臨床と心理学；支える・学ぶ・教えるを科学する ● 9784762022791 ● 岩瀧大樹 ● 学文社 ● 2012
備考
教科書・参考書に関する補足情報
その他に関しては講義内で適宜紹介する。
コース管理システム（Moodle）へのリンク
特になし。
責任教員コード
24554871
学生用連絡先
A棟5階501号室 TEL 220-7372
学生用開示用メールアドレス
peer_tk7ca@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
月曜日・水曜日 12:40～14:20 A棟5階501室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1020
科目名	特別活動指導の課題と実践Ⅱ

英文科目名	Special Activities II
担当教員名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 音山 若穂 [Otoyama Wakaho]
担当教員英文名	懸川 武史 [Kakegawa Takeshi], 音山 若穂 [Otoyama Wakaho]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	特別活動、特に学級経営・生徒指導の基盤となる学級活動の進め方について、多様な指導方法の種類とその特徴について理解し、有効な目標設定・教師の支援・教育効果の評価のための技能の向上を目ざす。
授業の到達目標（授業のレベル）	特別活動の目的や意義について理解している人間関係づくりについての基本的なスキルを身に付けている
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式	Special Activities II 特別活動で要求される教師の心理教育的支援技能の実習を含む。模擬授業および技能実習を実施するため現職教員と学部新卒学生が一緒に受講する。
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	演習（体験活動、トレーニング等）については事前の準備を含む。
成績評価基準（授業評価方法）	討議・実習への参加による平常点30点、レポート課題（指導案作成等）70点により総合的に評価する。

A: 100-80 / B: 79-70 / C:69-60 / D: 59-0
受講条件（履修資格） 特別活動の課題と実践Ⅰの既修者。 メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法） 演習形式 備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード 24554871 学生用連絡先 A棟5階501号室 TEL 220-7372 学生用開示用メールアドレス peer_tk7ca@gunma-u.ac.jp オフィスアワー 月曜日・水曜日 12:40～14:20 A棟5階501室 教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1021
科目名	心理・発達アセスメント実習
英文科目名	Psychoeducational assessment
担当教員名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 大島 みずき [Oshima Mizuki]

担当教員 英文名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 大島 みずき [Oshima Mizuki]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	児童生徒理解のための心理検査、発達検査および知能検査等の実施法と解釈の仕方を学び、実施し、その結果に基づいた指導プログラムの立案方法を学ぶ。同時に、アセスメントに必要な調査法やデータ処理の基礎知識についても学ぶ。
授業の到達目標（授業のレベル）	心理検査、発達検査および知能検査等の実施と解釈ができるようになる。 結果に基づいた指導プログラムの立案ができる。 アセスメントに必要な調査法やデータ処理の基礎知識が身につく。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
授業概要・形式	Psychoeducational assessment 受講者を被験者としてお互いにアセスメントデータを取り、データの処理や結果の解釈まで行なう。扱う検査の種類については、受講者の関心領域や希望により相談の上で決定する。また、希望により、調査法やデータ処理の基礎知識を扱う場合には、パソコンによる実習を含む。
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	検査結果の整理とレポート作成を含む。
成績評価基準（授業評価方法）	演習レポート（検査結果とその考察）に基づく評価 100%
	A: 100-80 / B: 79-70 / C:69-60 / D: 59-0
	受講条件（履修資格）

メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
実習形式
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24616067
学生用連絡先
B棟5階B506号室
学生用開示用メールアドレス
otoyama@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期 毎週月曜・木曜 12:40-14:10 B棟5階506室
後期 毎週月曜・火曜 12:40-14:10 B棟5階506室
教員ホームページ
http://kyoshin.edu.gunma-u.ac.jp/~otoyama/
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1022
科目名	児童・生徒指導のためのロールプレイングの技法と実習
英文科目名	
担当教員名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
担当教員英	山口 陽弘 [Yamaguchi

文名	Akihiro], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	児童生徒を理解・指導するために必要な対処能力全般を獲得することを目的とする。
授業の到達目標（授業のレベル）	上述した指導の際に、一方通行的な講義をするという能力ではなく、児童生徒と双方向のコミュニケーションする能力を実際の教育現場で遂行するレベルを目指す。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
授業概要・形式	集中講義形式だが、前半部で研究者教員からロールプレイや臨床心理学の初歩の知識を紹介する。その後、実務家教員から相互にロールプレイを実施し、お互いがリフレクションを行う。
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	これまでの児童生徒、保護者への対応の中で苦慮したことをレフレクションしてください。
成績評価基準（授業評価方法）	授業への出席、発表、実習の状況 80%、レポート 20%を総合して判定する。 各人のプレゼンテーションテーマを以下の基準で判定する。 S：テーマが十分に適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習した内容と自身の主張が説得的に提示されている。 A：テーマが十分に適切に設定され、プレゼンテーションおよびレポートにおいて学習した内容が明快に提示されている。 B：テーマが適切に設定され、プレゼンター

<p>ションおよびレポートにおいて学習した内容が提示されている。</p> <p>C：プレゼンテーションおよびレポートは実施されたが、テーマおよび学習した内容の提示において明確さを欠く。</p> <p>D：レポート、プレゼンテーションの内容が著しく不十分であるか未実施である。</p>
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
ロールプレイ、心理教育的指導、ラポール、非言語的コミュニケーション
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
授業に加えて実習を中心にする。
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24431267
学生用連絡先
B棟5階510号室 027-220-7375
学生用開示用メールアドレス
akihiro-y@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週月曜 午前10時～12時 B510 火曜 午前10時～12時 B510
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1023
科目名	外国籍児童生徒の支援と学校

	運営
英文科目名	Education for Foreign Children
担当教員名	新藤 慶 [Shindo Kei], 清水 喜義 [Kiyoshi Shimizu]
担当教員英文名	新藤 慶 [Shindo Kei], 清水 喜義 [Kiyoshi Shimizu]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	<p>本授業では、以下の3点を目標とする。</p> <p>(1) エスニック・マイノリティの子どもの実態を、学校内外の多様な要因と関連づけながら把握する。</p> <p>(2) エスニック・マイノリティの子どもへの教育の成果と課題を、歴史的な視点も踏まえつつ理解する。</p> <p>(3) 自らがエスニック・マイノリティの子どもへの教育を構想し、実践する力量を身につける。</p>
授業の到達目標（授業のレベル）	<p>前期の「多文化共生教育の課題と実践」では、在日ブラジル人児童生徒の教育を主に扱った。後期の本授業では、ブラジル人のほかに、日本に暮らすエスニック・マイノリティへの教育をめぐる状況を中心に扱う。この授業を通じて、エスニック・マイノリティへの教育に関わる共通点と相違点を理解し、適切な支援や学校運営を行いうる実践力の獲得を目標とする。</p>
ディプロマポリシー	<p>1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者</p> <p>2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者</p>
授業概要・形式	<p>戦後の日本には、在日韓国・朝鮮人、中国帰国者、かれら以外のアジア系外国人、南米系外国人など、多様な国籍やエスニシティを持つ人々が暮らしてきた。そのことに伴い、教育の面でも、これらの外国籍児童生徒に対</p>

<p>するさまざまな働きかけを行ってきた。そこでこの授業では、国内外における外国籍児童生徒や、「外国籍」ではないがエスニック・マイノリティの児童生徒を対象とした支援と、それを支える学校運営についての諸研究や諸実践の検討を通じて、成果と課題を把握し、今後のエスニック・マイノリティの児童生徒教育のあり方について考えたい。</p>
<p>授業スケジュール（授業の展開）</p>
<p>授業時間外学習にかかわる情報</p>
<p>授業中に提示する課題の準備に取り組むことが必要である。</p>
<p>成績評価基準（授業評価方法）</p>
<p>討論への参加状況と課題の水準によって総合的に評価する</p>
<p>受講条件（履修資格）</p>
<p>メッセージ（受講のルール）</p>
<p>前期の「多文化共生教育の課題と実践」では、在日ブラジル人の教育を中心に扱います。後期のこの授業では、在日ブラジル人以外のエスニック・マイノリティの子どもの教育を、外国の事例も含めてご紹介します。</p>
<p>キーワード</p>
<p>外国籍児童生徒、エスニック・マイノリティ、児童生徒支援、学校運営</p>
<p>この授業の基礎となる科目</p>
<p>多文化共生教育の課題と実践</p>
<p>次に履修が望まれる科目</p>
<p>関連授業科目</p>
<p>多文化共生教育の課題と実践</p>
<p>授業の形式（授業方法）</p>
<p>研究者教員と実務家教員の TT によって進める。授業は、教員からの講義、受講生との討論、受講生の課題発表から構成する。</p>
<p>備考</p>
<p>備考</p>
<p>教科書・参考書に関する補足情報</p>
<p>コース管理システム（Moodle）へのリンク</p>
<p>責任教員コード</p>
<p>24618616</p>
<p>学生用連絡先</p>
<p>A棟5階503号室 TEL 027-220-7380</p>
<p>学生用開示用メールアドレス</p>

shindo@gunma-u. ac. jp
オフィスアワー
毎週月曜日 10:20-11:50 A棟5階503室 毎週火曜日 10:20-11:50 A棟5階503室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1024
科目名	発達障害児特別支援教育の課題と実践
英文科目名	
担当教員名	霜田 浩信 [Shimoda Hironobu], 安田 淑美 [Yasuda Yoshimi]
担当教員英文名	霜田 浩信 [Shimoda Hironobu], 安田 淑美 [Yasuda Yoshimi]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	小・中学校の通常学級に在籍している発達障害児を主な対象として、その特別な教育ニーズを的確に把握して個別の学習支援計画を立てる力、各種の具体的な支援方法の知識及び特別支援教育コーディネーターの役割と実際に関する知識を身に付けることを目標とする。
授業の到達目標（授業のレベル）	発達障害児に対する特別支援教育の一般的知識に留まらず、具体的に個別の事例について支援の内容・方法を考えることができる。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
授業概要・形式	特別支援教育の中でも、小・中学校の通常学級に在籍する児童・生徒に焦点を当て、個々

<p>の子どもの実態の把握、それに基づく個別の学習支援計画の立案、及び支援の方法について、実践事例を交えて具体的に学ぶ。</p> <p>授業スケジュール（授業の展開）</p>
<p>授業時間外学習にかかわる情報</p> <p>授業内容ならびに配付する資料によって復習を行うこと。</p>
<p>成績評価基準（授業評価方法）</p> <p>授業への参加による平常点 30%、学修した知識を用いて作成する個別の学習支援計画案の内容とプレゼンテーション 70%を総合して評価を行う。</p>
<p>受講条件（履修資格）</p> <p>児童・生徒理解の課題と実践 I を履修済みであること。</p>
<p>メッセージ（受講のルール）</p> <p>発達障害児の理解と個別支援に関する専門的知識・技術は、通常学級の児童・生徒全員の指導において有意義であるので、積極的に取り組んでほしい。</p>
<p>キーワード</p> <p>特別支援教育、発達障害児</p>
<p>この授業の基礎となる科目</p> <p>児童・生徒理解の課題と実践 I</p>
<p>次に履修が望まれる科目</p> <p>教育相談実習</p>
<p>関連授業科目</p> <p>課題解決実習</p>
<p>授業の形式（授業方法）</p> <p>基本的には講義形式であるが、実践事例の映像資料や文字資料を巡っての研究討議や、個別の学習支援計画の立案作業と発表なども取り入れる。</p>
<p>備考</p> <p>必要な資料は随時配布する。参考文献も随時紹介する。</p>
<p>備考</p>
<p>教科書・参考書に関する補足情報</p>
<p>コース管理システム（Moodle）へのリンク</p>
<p>責任教員コード</p> <p>36577928</p>
<p>学生用連絡先</p> <p>教育学部 A 棟 507</p>
<p>学生用開示用メールアドレス</p> <p>shimoda@gunma-u.ac.jp</p>
<p>オフィスアワー</p>

<p>前期 火曜日 12:00～12:40 金曜日 12:00～12:40</p> <p>後期 水曜日 12:00～12:40 木曜日 12:00～12:40</p> <p>教員ホームページ</p>
<p>関連ホームページ</p>

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1029
科目名	カリキュラム開発の課題と実践 II
英文科目名	School curriculum development II
担当教員名	野村 晃男 [Akio Nomura], 山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]
担当教員英文名	野村 晃男 [Akio Nomura], 山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	<p>専門職学位課程ディプロマポリシーの「1. 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者」、「2. 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者」、「3. 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者勤務校において教育課程編成を主導し、担当分野のカリキュラム開発をリードする力量を高める」のすべてにわたり、カリキュラム開発という側面から学修する。</p>
授業の到達目標（授業のレベル）	<p>上級</p> <p>1. 勤務校（過去のものも含む）でのカリキュラム開発の経験を省察し、今日的課題に即した新たな展開を構想できる。</p>

2. カリキュラム開発にかかわるアクション・リサーチに関する方法論を習得する。
ディプロマポリシー
専門職学位課程ディプロマポリシーの以下3項目にかかわる能力を、「カリキュラム開発」という局面に即して育成する。 1. 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 2. 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力 3. 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考する能力
授業概要・形式
受講者が在籍校や先進校等におけるカリキュラム開発事例を収集・分析し、その結果を生かして、自ら特定領域や教科のカリキュラムの概要を提案する。研究者教員は全国的動向や諸外国等の事例、研究方法論を紹介する。実務家教員は自身の経験を受講者と共有するとともに、ミドルリーダーとしてカリキュラム開発をリードする際の留意点などを講じる。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
現職教員については、これまでの勤務校でのカリキュラムに関する資料の収集・整理、学部新卒者については先進校等の実践記録の自発的な講読が望まれる。
成績評価基準（授業評価方法）
授業中のプレゼンテーション 50% 期末課題等 50%
受講条件（履修資格）
教職リーダー専攻1年生
メッセージ（受講のルール）
カリキュラム開発に関する具体的な実践力を高めたい。
キーワード
カリキュラム開発 カリキュラムマネジメント
この授業の基礎となる科目
カリキュラム開発の課題と実践 I
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
カリキュラム開発の課題と実践 I

授業の形式（授業方法）
ティームティーチング 講義 事例研究
備考
参考書 1
● 現代カリキュラム研究と教育方法学：新学習指導要領・PISA型学力を問う ● 9784810085228 ● 日本教育方法学会 編, ● 図書文化社 ● 2008
参考書 2
● カリキュラム評価入門 ● 9784326298914 ● 田中統治, 根津朋実 編著, ● 勁草書房 ● 2009
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード
24362900
学生用連絡先
学生用開示用メールアドレス
オフィスアワー
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1032
科目名	スクール・リーダーシップの課題と実践
英文科目名	
担当教員名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]
担当教員英文名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一

	[Junichi Kimura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
①ミドルクラス以上のリーダーについての理論的・実践的知識を獲得すること、②受講者自身がリーダーシップ行動をとれる力量を獲得すること、をめざす。専門職学位課程ディプロマポリシーのすべてにわたり、これらの視点から力量形成を行う。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
中級	
1. 各種主任、分掌リーダーとして、教育活動をリードするための知識・技能を身につける。 2. リーダーシップをめぐる理論、自校のリーダーシップ構造を分析するためのツールを修得する。	
ディプロマポリシー	
専門職学位課程ディプロマポリシー（改訂案）の以下3項目にかかわる能力を、分掌の長などとしての「リーダーシップ」という局面に即して育成する。 (1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 (2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力 (3) 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力	
授業概要・形式	
集中講義	
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	
必要に応じ内容を指示する。	
成績評価基準（授業評価方法）	
授業中の課題による	
受講条件（履修資格）	
メッセージ（受講のルール）	
担当者はシラバス（とくに無意味に項目数の多いそれ）を絶対視する幼稚な授業観には与	

していないので、授業スケジュールはあくまで参考に。
キーワード
リーダーシップ 管理職 主任 主幹教諭 指導教諭
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
学校運営コース専門科目全て。
授業の形式（授業方法）
講義とグループワークを組み合わせで行う。
備考
参考書 1
● 次世代スクールリーダーのためのケースメソッド入門 ● 490532498X ● 牛渡淳ほか ● 花書院 ● 2014
参考書 2
● スクールリーダーシップ ● 4750330302 ● OECD ● 明石書店 ● 2009
参考書 3
● スクールリーダーシップ ● 978-4762020995 ● 小島弘道ほか ● 学文社 ● 2010
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
56680507
学生用連絡先
教育学部A棟5階A502号室 TEL 027-220-7371
学生用開示用メールアドレス
y-yusuke@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期：毎週火曜日および水曜日 PM.12:50-PM.14:20 教育学部A棟5階A502号室

不在の場合はメールにて連絡を。 後期：同上。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1033
科目名	教師の職能発達と学校経営
英文科目名	Professional development of
担当教員名	野村 晃男 [Akio Nomura], 山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]
担当教員英文名	野村 晃男 [Akio Nomura], 山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
教師の力量・資質のそれぞれに応じた向上策について、豊富な事例についての知識とその理論的背景への理解を獲得するとともに、実際にそれらの力量・資質を育てるための学校経営を構想できる力量を高める。 専門職学位課程ディプロマポリシーのすべての項目に関連して、校内研修、OJT などを実践の場として想定した学修を行う。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
上級	
○教師の力量形成の特質と予想される困難について、ライフステージの各段階に応じて理解し、具体的な問題状況に対する解決策を提案できる。 ○校内研修、OJT について、勤務校の実情に応じたプランを提案できる。	
ディプロマポリシー	
専門職学位課程ディプロマポリシーの以下3項目にかかわる能力を、受講者各自の教師としてのライフステージに即して育成する。	

(1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力
(2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力
(3) 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力
授業概要・形式
教師の職能発達や力量形成に関わる最新の知見、研修に関わる理論的・実践的理解を深めるとともに、実際に学校経営方針や研修計画を受講者自身が立て、プレゼンテーションを経てまとめる。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
2年次配当＝勤務しながらの受講となるため、通常勤務中の実践＝授業時間外学習とみなす。
成績評価基準（授業評価方法）
授業でのプレゼンテーション 100%
受講条件（履修資格）
教職リーダー専攻2年生
メッセージ（受講のルール）
校内研修の充実のための方策などを中心として学校経営力を高める。
キーワード
職能発達 学校経営 校内研修
この授業の基礎となる科目
学校経営の課題と実践Ⅰ・Ⅱ
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
教員の倫理
授業の形式（授業方法）
ティームティーチング
講義 受講者のプレゼンテーション
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24362900
学生用連絡先

学生用開示用メールアドレス
オフィスアワー
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1034
科目名	外国籍児童生徒の支援と学校運営
英文科目名	Education for Foreign Children
担当教員名	新藤 慶 [Shindo Kei], 清水 喜 義 [Kiyoshi Shimizu]
担当教員英文名	新藤 慶 [Shindo Kei], 清水 喜 義 [Kiyoshi Shimizu]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	<p>本授業では、以下の3点を目標とする。</p> <p>(1) エスニック・マイノリティの子どもの実態を、学校内外の多様な要因と関連づけながら把握する。</p> <p>(2) エスニック・マイノリティの子どもへの教育の成果と課題を、歴史的な視点も踏まえつつ理解する。</p> <p>(3) 自らがエスニック・マイノリティの子どもへの教育を構想し、実践する力量を身につける。</p>
授業の到達目標（授業のレベル）	<p>前期の「多文化共生教育の課題と実践」では、在日ブラジル人児童生徒の教育を主に扱った。後期の本授業では、ブラジル人のほかに、日本に暮らすエスニック・マイノリティへの教育をめぐる状況を中心に扱う。この授業を通じて、エスニック・マイノリティへの</p>

教育に関わる共通点と相違点を理解し、適切な支援や学校運営を行いうる実践力の獲得を目標とする。
ディプロマポリシー
<p>1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者</p> <p>2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者</p>
授業概要・形式
<p>戦後の日本には、在日韓国・朝鮮人、中国帰国者、かれら以外のアジア系外国人、南米系外国人など、多様な国籍やエスニシティを持つ人々が暮らしてきた。そのことに伴い、教育の面でも、これらの外国籍児童生徒に対するさまざまな働きかけを行ってきた。そこでこの授業では、国内外における外国籍児童生徒や、「外国籍」ではないがエスニック・マイノリティの児童生徒を対象とした支援と、それを支える学校運営についての諸研究や諸実践の検討を通じて、成果と課題を把握し、今後のエスニック・マイノリティの児童生徒教育のあり方について考えたい。</p>
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
授業中に提示する課題の準備に取り組むことが必要である。
成績評価基準（授業評価方法）
討論への参加状況と課題の水準によって総合的に評価する
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
<p>前期の「多文化共生教育の課題と実践」では、在日ブラジル人の教育を中心に扱います。後期のこの授業では、在日ブラジル人以外のエスニック・マイノリティの子どもへの教育を、外国の事例も含めてご紹介します。</p>
キーワード
外国籍児童生徒、エスニック・マイノリティ、児童生徒支援、学校運営
この授業の基礎となる科目
多文化共生教育の課題と実践
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
多文化共生教育の課題と実践
授業の形式（授業方法）
研究者教員と実務家教員の TT によって進め

る。授業は、教員からの講義、受講生との討論、受講生の課題発表から構成する。
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード 24618616
学生用連絡先 A棟5階503号室 TEL 027-220-7380
学生用開示用メールアドレス shindo@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー 毎週月曜日 10:20-11:50 A棟5階503室 毎週火曜日 10:20-11:50 A棟5階503室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科(専門職学位課程)
時間割番号	EM1035
科目名	学校評価の課題と実践
英文科目名	School evaluation
担当教員名	野村 晃男 [Akio Nomura], 山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]
担当教員英文名	野村 晃男 [Akio Nomura], 山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]
授業科目区分(科目分野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的(授業の目標及び期待される効果)	データにもとづく学校改善をミドルリーダーとして牽引できる基礎的力量を形成する。専門職学位課程ディプロマポリシーの全項目にわたり、「学校評価」という角度から力量形

成を行う。
授業の到達目標(授業のレベル)
中級～上級 ○学校の自己評価や外部評価に関わる理論的・制度的背景の理解を深める。 ○学校評価に関わる様々な方法論を学び、自らの学校評価に関わる能力を高める。 ○「学校評価ガイドライン」などに示された今日的な学校課題についての理解を深める。
ディプロマポリシー
専門職学位課程ディプロマポリシー(改訂案)の以下3項目にかかわる能力を、「学校評価」という局面に即して育成する。 (1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 (2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力 (3) 構築した対応策を他者(同僚、保護者等)との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力
授業概要・形式
学校評価制度についての様々な観点からの講義を聴講する。受講者自らも学校評価のための資料の収集や分析を行う。学修のまとめにおいて受講者自らの学校評価フォーマットを作成する。
授業スケジュール(授業の展開)
授業時間外学習にかかわる情報
現職教員については自校の、学部新卒者については県内外の学校ホームページなどでみられる学校評価の項目等について検討することが求められる。
成績評価基準(授業評価方法)
授業におけるプレゼンテーション50% 学校評価フォーマットの作成50%
受講条件(履修資格)
教職リーダー専攻1年生
メッセージ(受講のルール)
学校評価について多面的、体験的に学ぶことにより、その意義を理解し、学校評価に関わる能力を高めたい。
キーワード
学校評価 情報開示 学校の説明責任
この授業の基礎となる科目
カリキュラム開発の課題と実践 I 学校経営の課題と実践 I
次に履修が望まれる科目

関連授業科目
授業の形式（授業方法）
主として講義及び受講者によるプレゼンテーション
備考
参考書 1
<ul style="list-style-type: none"> ● 新・学校評価の論理と実践：外部評価の活用と内部評価の充実 ● 431680071X ● 西村文男, 天笠茂, 堀井啓幸 編, ● 教育出版 ● 2004
参考書 2
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価の「問題」を読み解く：学校の潜在力の解発 ● 9784316800561 ● 木岡一明 著, ● 教育出版 ● 2004
参考書 3
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価のしくみをどう創るか：先進5カ国に学ぶ自律性の育て方 ● 431361026X ● 窪田眞二, 木岡一明 編著, ● 学陽書房 ● 2004
参考書 4
<ul style="list-style-type: none"> ● 教職研修総合特集「新たな教員評価の導入と展開」 ● 4873809207 ● ● 教育開発研究所 ● 2006
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24362900
学生用連絡先
学生用開示用メールアドレス
オフィスアワー

教員ホームページ
関連ホームページ
開講年度
2019
開講学期
開講学部学科等
大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号
EM1044
科目名
児童・生徒指導の課題と実践Ⅱ
英文科目名
担当教員名
懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
担当教員英文名
懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
授業科目区分（科目分野名）
対象学生
対象年次
授業科目
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）
教育活動における生徒指導、問題行動について学修し、児童生徒理解に基づく実践の在り方について学ぶ
授業の到達目標（授業のレベル）
<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント、各理論とそのアプローチの知識獲得 ・事例研究による実践力の向上
ディプロマポリシー
4 現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について、確かな見識を有している。
5 子どもの成長・発達とそれを支える大人の役割について、十分に理解している。
6 子ども、親、同僚などとコミュニケーションをとることができる。
授業概要・形式
学校臨床の視点を理解し、教育活動における実践について学修し、解決モデルの在り方を探究する。
授業スケジュール（授業の展開）
<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 臨床心理学 カウンセリング 心理療法 ● アセスメント ①

<ul style="list-style-type: none"> ● アセスメント ② ● アセスメント ③ ● 精神分析 ● クライアント中心療法 ● 行動療法 ● 認知行動療法 ● ケース研究 ① 不登校 ● ケース研究 ② いじめ ● ケース研究 ③ 非行 ● 包括的なアプローチ ① デザイン ● 包括的なアプローチ ② ● リフレクション ● レポート作成
授業時間外学習にかかわる情報
授業スケジュールにより、割り当てられた準備、リアクションペーパーへの記入。
成績評価基準（授業評価方法）
<p>・生徒指導上の課題の明確な理解 ・事例検討を通じた生徒指導の在り方の理解</p> <p>第 8 回及び第 14 回のリフレクションでのレポート 50%</p> <p>第 15 回のレポート 50%</p> <p>① キーワードの概念を理解し使用している</p> <p>② 問題行動のメカニズムが理解できている</p> <p>③ 理解に基づく生徒指導のアプローチの理解できている</p> <p>①～③すべて達成 A 2 項目達成 B 1 項目達成 C 何れの項目も未達成 D</p>
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
臨床心理学 アセスメント ケース研究 カウンセリング 教育心理学
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
講義・ワーク・ケース検討
備考

備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24554871
学生用連絡先
A 棟 5 階 501 号室 TEL 220-7372
学生用開示用メールアドレス
peer_tk7ca@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
月曜日・水曜日 12:40～14:20 A 棟 5 階 501 室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1045
科目名	心理・発達アセスメント実習
英文科目名	
担当教員名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 大島 みずき [Oshima Mizuki]
担当教員英文名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 大島 みずき [Oshima Mizuki]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
	児童生徒理解のための心理検査、発達検査および知能検査等の実施法と解釈の仕方を学び、実施し、その結果に基づいた指導プログラムの立案方法を学ぶ。同時に、アセスメントに必要な調査法やデータ処理の基礎知識についても学ぶ。
授業の到達目標（授業のレベル）	

心理検査、発達検査および知能検査等の実施と解釈ができるようになる。 結果に基づいた指導プログラムの立案ができる。 アセスメントに必要な調査法やデータ処理の基礎知識が身につく。
ディプロマポリシー
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
授業概要・形式
Psychoeducational assessment 受講者を被験者としてお互いにアセスメントデータを取り、データの処理や結果の解釈まで行なう。扱う検査の種類については、受講者の関心領域や希望により相談の上で決定する。また、希望により、調査法やデータ処理の基礎知識を扱う場合には、パソコンによる実習を含む。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
検査結果の整理とレポート作成を含む。
成績評価基準（授業評価方法）
演習レポート（検査結果とその考察）に基づく評価 100% A: 100-80 / B: 79-70 / C: 69-60 / D: 59-0
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
実習形式
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク

責任教員コード
24616067
学生用連絡先
B棟5階B506号室
学生用開示用メールアドレス
otoyama@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期 毎週月曜・木曜 12:40-14:10 B棟5階506室 後期 毎週月曜・火曜 12:40-14:10 B棟5階506室
教員ホームページ
http://kyoshin.edu.gunma-u.ac.jp/~otoyama/
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1051
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education
担当教員名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
担当教員英文名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	専門職学位課程 教職リーダー専攻 児童生徒支援コースの必修科目である。各自の関心、問題意識に基づいて、児童生徒の学習指導の成果を上げる方法を、先行研究や先行実践事例等を参考に検討することをねらいとする。受講生が次の能力を身につけることを目指す：(1)学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力、(2)明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力、(3)

構築した対応策を他者（同僚，保護者等）との協働の中で実践し，その実践を評価・再考察する能力。	● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村
授業の到達目標（授業のレベル）	● 実習を課題研究の視点で省察する 担当：佐藤・田村
学生は、学習支援に関連する理論や先行研究を的確に理解できる、自分の捉えた課題解決の方法を構想できる、実践の検証方法を提案できる。	● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村
ディプロマポリシー	● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村
<p>1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し，課題を明らかにする能力を身につけた者</p> <p>2 明らかになった課題に対し，対応策を構築する能力を身につけた者</p> <p>3 構築した対応策を他者（同僚，保護者等）との協働の中で実践し，その実践を評価・再考察する能力を身につけた者</p>	● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村
授業概要・形式	● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村
<p>Action research in education</p> <p>教員は学生が以下の学習に取り組むのに必要な指導を行う。(1)各自の関心、問題意識に基づいて、児童生徒の学習指導の成果を上げる方法を、先行研究や先行実践事例等を参考に検討する。(2)授業実践の成果を検証し、児童生徒の学習にとって有益で、汎用性のある知見を引き出す。毎回、研究者教員と実務経験のある教員（小中学校教員・教育行政職の経験を有する者）がチームティーチングで行う。実務経験のある教員が、その実務経験を生かして、小中学校現場での授業実践にどのように心理学の理論を活用するかという観点から、講義を行ったり、受講生の提案する模擬授業にアドバイスを行う。全ての受講者にとって初めて学習することが多いので、教員側から適宜、適切なサポートをする。</p>	● 中間報告準備 担当：佐藤・田村
授業スケジュール（授業の展開）	● まとめ 担当：佐藤・田村
<ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス 担当：佐藤・田村 ● 課題研究の実例に学ぶ 担当：佐藤・田村 ● 課題研究の実例に学ぶ 担当：佐藤・田村 ● 研究の進め方 担当：佐藤・田村 ● 各受講者の捉える課題について 担当：佐藤・田村 ● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村 ● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村 	授業時間外学習にかかわる情報 各自のテーマに基づいて、自律的に、先行研究の検討、自分の授業実践の構想などを進めること。
	成績評価基準（授業評価方法）
	「成績評価の方法」複数回のレポート発表（70%）、まとめの報告（30%）
	「成績評価基準」心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想し、授業として提案できること。
	受講条件（履修資格）
	教職大学院の1・2年次
	メッセージ（受講のルール）
	このシラバスは、佐藤・田村ゼミのものである。他のゼミについては、当該のシラバスを参照すること。
	キーワード
	学習、認知、知識、理論、実践、実務経験
	この授業の基礎となる科目
	「学習支援の課題と実践Ⅰ」、「学習支援の課題と実践Ⅱ」
	次に履修が望まれる科目
	課題解決実習
	関連授業科目
	授業の形式（授業方法）
	ゼミ形式。研究者教員（佐藤）と実務家教員（田村）のチーム・ティーチングによる。
	備考
	参考書 1
	● 学習の支援と教育評価：理論と実践の協同

● 9784762828010
● 佐藤浩一 編著,
● 北大路書房
● 2013
参考書 2
● 学習支援のツボ : 認知心理学者が教室で考えたこと
● 9784762828652
● 佐藤浩一 著,
● 北大路書房
● 2014
備考
そのほか、「学習支援の課題と実践 I・II」の参考書に準ずる。
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード
64140672
学生用連絡先
B棟5階508号室 内線7376
学生用開示用メールアドレス
sato@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週 月曜日の7・8校時、火曜日の3・4校時
B棟5階508号室
不在の場合は、ドアにメッセージ(連絡先)を貼付してください。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科(専門職学位課程)
時間割番号	EM1052
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
担当教員英文名	佐藤 浩一 [Sato Koichi], 田村 充 [Tamura Mitsuru]
授業科目区分(科目分野名)	

対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的(授業の目標及び期待される効果)	専門職学位課程 教職リーダー専攻 児童生徒支援コースの必修科目である。各自の関心、問題意識に基づいて、児童生徒の学習指導の成果を上げる方法を、先行研究や先行実践事例等を参考に検討することをねらいとする。受講生が次の能力を身につけることを目指す：(1)学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力、(2)明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力、(3)構築した対応策を他者(同僚、保護者等)との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力。
授業の到達目標(授業のレベル)	学生は、学習支援に関連する理論や先行研究を理解出来る、自分の捉えた課題解決の方法を構想できる、検証方法を提案できる。2年次の学生は以上に加えて、実践成果を検証し適切に報告できる。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者(同僚、保護者等)との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式	Action research in education 教師は学生が以下の学習を進めるのに必要な指導を行う：(1)各自の関心、問題意識に基づいて、児童生徒の学習指導の成果を上げる方法を、先行研究や先行実践事例等を参考に検討する。(2)授業実践の成果を検証し、児童生徒の学習にとって有益で、汎用性のある知見を引き出す。全ての受講者にとって初めて学習することが多いので、教員側から適宜、適切なサポートをする。 毎回、研究者教員と実務経験のある教員(小中学校教員・教育行政職の経験を有する者)がチームティーチングで行う。実務経験のある教員が、その実務経験を生かして、小中

学校現場での授業実践にどのように心理学の理論を活用するかという観点から指導を行う。
授業スケジュール（授業の展開）
<ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス 担当：佐藤・田村 ● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村 ● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村 ● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村 ● 課題解決に生かせる先行研究、実践事例 担当：佐藤・田村 ● 指導案の検討 担当：佐藤・田村 ● 指導案の検討 担当：佐藤・田村 ● 指導案の検討 ● 指導案の検討 担当：佐藤・田村 ● 指導案の検討 担当：佐藤・田村 ● 検証方法の検討 担当：佐藤・田村 ● 検証方法の検討 担当：佐藤・田村 ● 検証方法の検討 担当：佐藤・田村 ● まとめの報告 担当：佐藤・田村 ● まとめ 担当：佐藤・田村
授業時間外学習にかかわる情報
各自の研究テーマに則して、自律的に、先行研究の検討、授業実践の構想、等を進めること。
成績評価基準（授業評価方法）
「成績評価の方法」複数回のレポート報告（70%）、最終レポート（30%）
「成績評価基準」心理学の理論知と学校現場の実践知の両者に立脚して、児童生徒の学習を支援する有効な手立てを構想し、授業として提案できること。
受講条件（履修資格）
教職大学院の1・2年次
メッセージ（受講のルール）
このシラバスは、佐藤・田村ゼミのものである。他のゼミについては当該教員によるシラバスを参照すること。
キーワード
学習、認知、知識、理論、実践、実務経験
この授業の基礎となる科目
「学習支援の課題と実践Ⅰ」、「学習支援の課題と実践Ⅱ」
次に履修が望まれる科目
課題解決実習
関連授業科目

授業の形式（授業方法）	
ゼミ形式。研究者教員（佐藤）と実務家教員（田村）のチーム・ティーチングによる。	
備考	
参考書 1	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の支援と教育評価：理論と実践の協同 ● 9784762828010 ● 佐藤浩一 編著, ● 北大路書房 ● 2013 	
参考書 2	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学習支援のツボ：認知心理学者が教室で考えたこと ● 9784762828652 ● 佐藤浩一 著, ● 北大路書房 ● 2014 	
備考	
そのほか、「学習支援の課題と実践Ⅰ・Ⅱ」の参考書に準ずる。	
教科書・参考書に関する補足情報	
コース管理システム（Moodle）へのリンク	
責任教員コード	
64140672	
学生用連絡先	
B棟5階508号室 内線7376	
学生用開示用メールアドレス	
sato@gunma-u.ac.jp	
オフィスアワー	
毎週 月曜日の7・8校時、火曜日の3・4校時	
B棟5階508号室	
不在の場合は、ドアにメッセージ（連絡先）を貼付してください。	
教員ホームページ	
関連ホームページ	

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1053
科目名	児童生徒支援課題研究

英文科目名	Action research in education.
担当教員名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 平林 茂 [Shigeru Hirabayashi]
担当教員英 文名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 平林 茂 [Shigeru Hirabayashi]
授業科目区 分（科目分 野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
院生各人が課題研究を進めることを支援すること	
授業の到達目標（授業のレベル）	
二年間で課題研究報告書をまとめることを最終目標とする。	
ディプロマポリシー	
1, 2	
学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者	
授業概要・形式	
実務家教員と研究者教員との共同での指導。	
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	
課題研究のテーマについて、指導した助言をもとに自学自習すること。	
成績評価基準（授業評価方法）	
課題研究を二年間で完成させられるか否かという視点で判定している。進行状況が十分高ければ A、やや不十分なら B、かなり不十分ならば C、このままでは書けないというようであれば D とする。	
受講条件（履修資格）	
メッセージ（受講のルール）	
キーワード	
この授業の基礎となる科目	
次に履修が望まれる科目	

関連授業科目	
授業の形式（授業方法）	各自の発表に対して、研究者教員と実務家教員とがコメント、指導、他の受講生もディスカッション。
備考	
備考	
教科書・参考書に関する補足情報	
コース管理システム（Moodle）へのリンク	
責任教員コード	24431267
学生用連絡先	B 棟 5 階 510 号室 027-220-7375
学生用開示用メールアドレス	akihiro-y@gunma-u. ac. jp
オフィスアワー	毎週月曜 午前 10 時～12 時 B510 火曜 午前 10 時～12 時 B510
教員ホームページ	
関連ホームページ	

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学 科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1054
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 平林 茂 [Shigeru Hirabayashi]
担当教員英 文名	山口 陽弘 [Yamaguchi Akihiro], 平林 茂 [Shigeru Hirabayashi]
授業科目区 分（科目分 野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	

果)
課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題解決に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。
授業の到達目標（授業のレベル）
児童生徒支援の課題を把握し、その解決の方途を構想できる。
ディプロマポリシー
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者
2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者
授業概要・形式
受講者が自ら課題を設定して、教員の指導のもと、個別に進めていく。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
毎回提示される課題への準備が必要である。
成績評価基準（授業評価方法）
課題分析とまとめ50% プレゼンテーション50%
受講条件（履修資格）
教職大学院1年生・2年生
メッセージ（受講のルール）
必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
ティームティーチング
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク

責任教員コード
24431267
学生用連絡先
B棟5階510号室 027-220-7375
学生用開示用メールアドレス
akihiro-y@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週月曜 午前10時～12時 B510 火曜 午前10時～12時 B510
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1055
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
担当教員英文名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
	児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にするとともに、各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう。
授業の到達目標（授業のレベル）	
	児童生徒支援に関する先行研究や実践事例を理解している。 各自の教育実践上の課題を把握し、その解決方法を立案できる。 実践のリフレクションと、実践の基礎的な効

果検証が行える。
ディプロマポリシー
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式
Action research in education 1) 児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にする 2) 各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
各自のテーマに基づき、先行研究・授業実践の資料の収集、分析、プレゼンテーション準備
成績評価基準（授業評価方法）
授業中のプレゼンテーション（70%）、レポート（報告会資料、30%） （評価基準）1) 各自のテーマに基づき必要な先行研究や実践事例が検討されていること、2) 児童生徒支援の有効な実践に向けた提案もしくは報告がなされていること A: 100-80 / B: 79-70 / C: 69-60 / D: 59-0
受講条件（履修資格）
教職大学院の1・2年次
メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
課題解決実習
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
ゼミ形式。研究者教員（音山）と実務家教員

（懸川）のティーム・ティーチングによる。
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24616067
学生用連絡先
B棟5階B506号室
学生用開示用メールアドレス
otoyama@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期 毎週月曜・木曜 12:40-14:10 B棟5階506室 後期 毎週月曜・火曜 12:40-14:10 B棟5階506室
教員ホームページ
http://kyoshin.edu.gunma-u.ac.jp/~otoyama/
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1056
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
担当教員英文名	音山 若穂 [Otoyama Wakaho], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	

児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にするとともに、各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう。
授業の到達目標（授業のレベル）
児童生徒支援に関する先行研究や実践事例を理解している。 各自の教育実践上の課題を把握し、その解決方法を立案できる。 実践のリフレクションと、実践の基礎的な効果検証が行える。
ディプロマポリシー
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式
Action research in education 1) 児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にする 2) 各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
各自のテーマに基づき、先行研究・授業実践の資料の収集、分析、プレゼンテーション準備
成績評価基準（授業評価方法）
授業中のプレゼンテーション（70%）、レポート（報告会資料、30%） （評価基準）1) 各自のテーマに基づき必要な先行研究や実践事例が検討されていること、2) 児童生徒支援の有効な実践に向けた提案もしくは報告がなされていること A: 100-80 / B: 79-70 / C: 69-60 / D: 59-0
受講条件（履修資格）

教職大学院の1・2年次
メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
課題解決実習
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
ゼミ形式。研究者教員（音山）と実務家教員（懸川）のティーム・ティーチングによる。
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24616067
学生用連絡先
B棟5階B506号室
学生用開示用メールアドレス
otoyama@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期 毎週月曜・木曜 12:40-14:10 B棟5階506室
後期 毎週月曜・火曜 12:40-14:10 B棟5階506室
教員ホームページ
http://kyoshin.edu.gunma-u.ac.jp/~otoyama/
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1057
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 懸川 武史

	[Kakegawa Takeshi]	各自のテーマに基づき、先行研究・授業実践の資料の収集、分析、プレゼンテーション準備
担当教員英文名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]	
授業科目区分（科目分野名）		成績評価基準（授業評価方法）
対象学生		授業中のプレゼンテーション（70%）、レポート（報告会資料、30%）
対象年次		（評価基準）1）各自のテーマに基づき必要な先行研究や実践事例が検討されていること、2）児童生徒支援の有効な実践に向けた提案もしくは報告がなされていること
授業科目		A: 100-80 / B: 79-70 / C: 69-60 / D: 59-0
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にするとともに、各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう。	受講条件（履修資格） 教職大学院の1・2年次 メッセージ（受講のルール）
授業の到達目標（授業のレベル）	児童生徒支援に関する先行研究や実践事例を理解している。 各自の教育実践上の課題を把握し、その解決方法を立案できる。 実践のリフレクションと、実践の基礎的な効果検証が行える。	キーワード
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者	この授業の基礎となる科目
授業概要・形式	Action research in education 1）児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にする 2）各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう	次に履修が望まれる科目 課題解決実習 関連授業科目
授業スケジュール（授業の展開）		授業の形式（授業方法） ゼミ形式。研究者教員（音山）と実務家教員（懸川）のティーム・ティーチングによる。
授業時間外学習にかかわる情報		備考
		備考
		教科書・参考書に関する補足情報
		コース管理システム（Moodle）へのリンク
		責任教員コード 24738863
		学生用連絡先
		学生用開示用メールアドレス mi-oshima@gunma-u.ac.jp
		オフィスアワー 前期 毎週火曜日 9:00-10:00 毎週木曜日 9:30-12:30 後期 毎週月曜日 10:30-12:30 毎週火曜日 9:30-10:00
		B棟5階509室

教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1058
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
担当教員英文名	大島 みずき [Oshima Mizuki], 懸川 武史 [Kakegawa Takeshi]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にするとともに、各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう。
授業の到達目標（授業のレベル）	児童生徒支援に関する先行研究や実践事例を理解している。 各自の教育実践上の課題を把握し、その解決方法を立案できる。 実践のリフレクションと、実践の基礎的な効果検証が行える。
ディプロマポリシー	1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者 3 構築した対応策を他者（同僚、保護者

等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力を身につけた者
授業概要・形式
Action research in education 1）児童生徒支援に関する内外の先行研究や実践事例を概観し、受講者各自の教育実践上の課題を明確にする 2）各自の課題の解決に向けたプランの提案、実践、および実践後のリフレクションを行なう
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
各自のテーマに基づき、先行研究・授業実践の資料の収集、分析、プレゼンテーション準備
成績評価基準（授業評価方法）
授業中のプレゼンテーション（70%）、レポート（報告会資料、30%） （評価基準）1）各自のテーマに基づき必要な先行研究や実践事例が検討されていること、2）児童生徒支援の有効な実践に向けた提案もしくは報告がなされていること A: 100-80 / B: 79-70 / C: 69-60 / D: 59-0
受講条件（履修資格）
教職大学院の1・2年次
メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
課題解決実習
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
ゼミ形式。研究者教員（音山）と実務家教員（懸川）のチーム・ティーチングによる。
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク

責任教員コード
24738863
学生用連絡先
学生用開示用メールアドレス
mi-oshima@gunma-u. ac. jp
オフィスアワー
前期 毎週火曜日 9:00-10:00 毎週木曜日 9:30-12:30
後期 毎週月曜日 10:30-12:30 毎週火曜日 9:30-10:00
B棟5階509室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1059
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	三澤 紘一郎 [Koichiro Misawa], 立見 康彦 [Tatsumi Yasuhiko]
担当教員英文名	三澤 紘一郎 [Koichiro Misawa], 立見 康彦 [Tatsumi Yasuhiko]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
受講生が課題研究を進めるにあたっての支援をすること。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
・ テーマを精選することができる ・ 先行研究を読み、分析できること	

ディプロマポリシー
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者
授業概要・形式
論文作成の基本的な作法について、実務家教員と研究者教員とが共同で指導にあたる。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
先行文献を広く渉猟し、批判的に検討すること。
成績評価基準（授業評価方法）
毎週の課題の達成度に応じる。
受講条件（履修資格）
メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
講義、演習、対話・討論
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24738964
学生用連絡先
教育学部A棟5階A504 Tel: 027-220-7373
学生用開示用メールアドレス
kmisawa@gunma-u. ac. jp
オフィスアワー
火曜日： 13.00-16.00
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1060
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	三澤 紘一郎 [Koichiro Misawa], 立見 康彦 [Tatsumi Yasuhiko]
担当教員英文名	三澤 紘一郎 [Koichiro Misawa], 立見 康彦 [Tatsumi Yasuhiko]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
受講生が課題研究を進めるにあたっての支援をすること。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
・ テーマを精選することができる ・ 先行研究を読み、分析できること	
ディプロマポリシー	
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者	
授業概要・形式	
論文作成の基本的な作法について、実務家教員と研究者教員とが共同で指導にあたる。	
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	
先行文献を広く渉猟し、批判的に検討すること。	
成績評価基準（授業評価方法）	
毎週の課題の達成度に応じる。	
受講条件（履修資格）	

メッセージ（受講のルール）
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法） 講義、演習、対話・討論
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード 24738964
学生用連絡先 教育学部 A 棟 5 階 A504 Tel: 027-220-7373
学生用開示用メールアドレス kmisawa@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー 火曜日： 13.00-16.00
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1061
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]
担当教員英文名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]
授業科目区分（科目分	

野名)	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題経穴に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
中級～上級	
ディプロマポリシー	
専門職学位課程ディプロマポリシー（改訂案）の以下3項目にかかわる能力の育成の集大成とする。 (1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 (2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力 (3) 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力	
授業概要・形式	
チームティーチングによる演習、実習形式	
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	
必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。	
成績評価基準（授業評価方法）	
授業中の報告 50%，中間報告会でのプレゼンテーション 50%	
受講条件（履修資格）	
学校運営コース 1年生，2年生	
メッセージ（受講のルール）	
キーワード	
授業，生徒指導，課題研究	
この授業の基礎となる科目	
次に履修が望まれる科目	
関連授業科目	

授業の形式（授業方法）	
1年生：演習	
2年生：個別指導及び演習	
備考	
備考	
教科書・参考書に関する補足情報	
コース管理システム（Moodle）へのリンク	
責任教員コード	
56680507	
学生用連絡先	
教育学部A棟5階A502号室 TEL 027-220-7371	
学生用開示用メールアドレス	
y-yusuke@gunma-u.ac.jp	
オフィスアワー	
前期：毎週火曜日および水曜日 PM.12:50-PM.14:20 教育学部A棟5階A502号室 不在の場合はメールにて連絡を。 後期：同上。	
教員ホームページ	
関連ホームページ	

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1062
科目名	児童生徒支援課題研究
英文科目名	Action research in education.
担当教員名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]，木村 淳一 [Junichi Kimura]
担当教員英文名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke]，木村 淳一 [Junichi Kimura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	

果)
課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題経穴に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。
授業の到達目標（授業のレベル）
中級～上級
ディプロマポリシー
専門職学位課程ディプロマポリシー（改訂案）の以下3項目にかかわる能力の育成の集大成とする。 (1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 (2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力 (3) 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力
授業概要・形式
ティームティーチングによる演習、実習形式
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。
成績評価基準（授業評価方法）
授業中の報告 50%、中間報告会でのプレゼンテーション 50%
受講条件（履修資格）
学校運営コース 1年生、2年生
メッセージ（受講のルール）
キーワード
授業、生徒指導、課題研究 この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
1年生：演習 2年生：個別指導及び演習
備考
備考

教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
56680507
学生用連絡先
教育学部A棟5階A502号室 TEL 027-220-7371
学生用開示用メールアドレス
y-yusuke@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期：毎週火曜日および水曜日 PM.12:50-PM.14:20 教育学部A棟5階A502号室 不在の場合はメールにて連絡を。 後期：同上。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1071
科目名	学校運営課題研究
英文科目名	Research on school management
担当教員名	新藤 慶 [Shindo Kei], 野村 晃男 [Akio Nomura]
担当教員英文名	新藤 慶 [Shindo Kei], 野村 晃男 [Akio Nomura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題解決に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。
授業の到達目標（授業のレベル）	学校運営の課題を把握し、その解決の方途を

構想できる。
ディプロマポリシー
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者
授業概要・形式
受講者が自ら課題を設定して、教員の指導のもと、個別に進めていく。
授業スケジュール（授業の展開）
授業時間外学習にかかわる情報
毎回提示される課題への準備が必要である。
成績評価基準（授業評価方法）
課題分析とまとめ50% プレゼンテーション50%
受講条件（履修資格）
教職大学院1年生・2年生
メッセージ（受講のルール）
必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
ティームティーチング
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24618616
学生用連絡先
A棟5階503号室 TEL 027-220-7380
学生用開示用メールアドレス
shindo@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週月曜日 10:20-11:50 A棟5階503室

毎週火曜日 10:20-11:50 A棟5階503室	
教員ホームページ	
関連ホームページ	
開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1072
科目名	学校運営課題研究
英文科目名	Research on school management
担当教員名	新藤 慶 [Shindo Kei], 野村 晃男 [Akio Nomura]
担当教員英文名	新藤 慶 [Shindo Kei], 野村 晃男 [Akio Nomura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題解決に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。
授業の到達目標（授業のレベル）	学校運営の課題を把握し、その解決の方途を構想できる。
ディプロマポリシー	
1 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力を身につけた者 2 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力を身につけた者	
授業概要・形式	受講者が自ら課題を設定して、教員の指導のもと、個別に進めていく。
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	毎回提示される課題への準備が必要である。
成績評価基準（授業評価方法）	課題分析とまとめ50% プレゼンテーション

ヨン50%
受講条件（履修資格）
教職大学院1年生・2年生
メッセージ（受講のルール）
必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。
キーワード
この授業の基礎となる科目
次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法）
ティームティーチング
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード
24618616
学生用連絡先
A棟5階503号室 TEL 027-220-7380
学生用開示用メールアドレス
shindo@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
毎週月曜日 10:20-11:50 A棟5階503室 毎週火曜日 10:20-11:50 A棟5階503室
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1073
科目名	学校運営課題研究
英文科目名	
担当教員名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]

担当教員 英文名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	
対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	
課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題経穴に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。	
授業の到達目標（授業のレベル）	
中級～上級	
ディプロマポリシー	
専門職学位課程ディプロマポリシー（改訂案）の以下3項目にかかわる能力の育成の集大成とする。	
(1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力	
(2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力	
(3) 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力	
授業概要・形式	
ティームティーチングによる演習、実習形式	
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	
必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。	
成績評価基準（授業評価方法）	
授業中の報告 50%, 中間報告会でのプレゼンテーション 50%	
受講条件（履修資格）	
学校運営コース1年生, 2年生	
メッセージ（受講のルール）	
キーワード	
この授業の基礎となる科目	

次に履修が望まれる科目
関連授業科目
授業の形式（授業方法） 1年生：演習 2年生：個別指導及び演習
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム（Moodle）へのリンク
責任教員コード 56680507
学生用連絡先 教育学部A棟5階A502号室 TEL 027-220-7371
学生用開示用メールアドレス y-yusuke@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー 前期：毎週火曜日および水曜日 PM.12:50-PM.14:20 教育学部A棟5階A502号室 不在の場合はメールにて連絡を。 後期：同上。
教員ホームページ
関連ホームページ

開講年度	2019
開講学期	
開講学部学科等	大学院教育学研究科（専門職学位課程）
時間割番号	EM1074
科目名	学校運営課題研究
英文科目名	
担当教員名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]
担当教員英文名	山崎 雄介 [Yamazaki Yusuke], 木村 淳一 [Junichi Kimura]
授業科目区分（科目分野名）	
対象学生	

対象年次	
授業科目	
授業の目的（授業の目標及び期待される効果）	課題を発見し、課題の分析、課題解決のための対応策の立案、実践、省察、他者へのプレゼンテーションといった学校現場の課題経穴に向けた高度の一連の諸能力と技能を習得する。
授業の到達目標（授業のレベル）	中級～上級
ディプロマポリシー	専門職学位課程ディプロマポリシー（改訂案）の以下3項目にかかわる能力の育成の集大成とする。 (1) 学校現場の置かれている状況や児童・生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする能力 (2) 明らかになった課題に対し、対応策を構築する能力 (3) 構築した対応策を他者（同僚、保護者等）との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する能力
授業概要・形式	チームティーチングによる演習、実習形式
授業スケジュール（授業の展開）	
授業時間外学習にかかわる情報	必要に応じて、予定した授業時間以外でも先進校訪問等を行う。受講者個人のペースにより授業（助言等）を弾力的に実施することがある。
成績評価基準（授業評価方法）	授業中の報告 50%、中間報告会でのプレゼンテーション 50%
受講条件（履修資格）	学校運営コース1年生、2年生
メッセージ（受講のルール）	
キーワード	授業、生徒指導、課題研究
この授業の基礎となる科目	
次に履修が望まれる科目	
関連授業科目	
授業の形式（授業方法）	1年生：演習

2年生：個別指導及び演習
備考
備考
教科書・参考書に関する補足情報
コース管理システム (Moodle) へのリンク
責任教員コード
56680507
学生用連絡先
教育学部A棟5階A502号室 TEL 027-220-7371
学生用開示用メールアドレス
y-yusuke@gunma-u.ac.jp
オフィスアワー
前期：毎週火曜日および水曜日 PM.12:50-PM.14:20 教育学部A棟5階A502号室 不在の場合はメールにて連絡を。
後期：同上。
教員ホームページ
関連ホームページ